

## 釧路市アイヌ施策推進地域計画

- 1 アイヌ施策推進地域計画の名称  
釧路市アイヌ施策推進地域計画
- 2 アイヌ施策推進地域計画の作成主体  
北海道釧路市
- 3 アイヌ施策推進地域計画の目標

### (1) 地域におけるアイヌ文化等の現状及び課題

釧路地区(旧釧路市)においては、釧路川河口の高台を中心に古くからコタンが形成され和人との交易がなされており、それらは幕府がアイヌの人々と交易を行う釧路場所へと移行するという歴史があった。また阿寒地区(旧阿寒町)では、多くのアイヌの人々が本町地区周辺に居住し、阿寒湖周辺を狩場としてクマやシカを獲り、釧路場所での交易品としていた。

しかしながら明治以降の政府の勸農政策の影響により、アイヌの人々の生活は農耕主体の生活へと生活様式が変遷し、阿寒湖周辺をアイヌの狩場とするイオルは急速に失われ、伝統的な生活文化の継承も次第に困難になっていった。

釧路市には現在 1,121 人のアイヌの人々が居住し釧路市全人口の約0.6%を占めており、この数字は全道の人数の約6.7%に当たる(H25アイヌ生活実態調査)。

釧路市におけるアイヌ文化を取り巻く現状と課題について、釧路アイヌ協会が活動の拠点としている春採地域では、春採生活館で例年イチャルパ等の儀式を行っているほか、同生活館において道外から当市へ移住、長期滞在する方々や観光客を取り込んだアイヌ文化を体験できる事業として、刺繍、木彫、舞踊、トンコリ、語学、料理などの講習会等を行っており、同生活館はアイヌ文化の発信拠点として重要な役割を担っている。

一方で、釧路地区においてはアイヌ文化の伝承者の高齢化や経済的理由などにより、伝承活動は一部の有志のみに限定したものとなっているほか、活動拠点である春採生活館についても、建築から40年以上経過し老朽化が目立ち始め、文化伝承事業などの参加者の増加による狭隘化もあり、改築を要望する声が上がっており、今後、施設の状況を見極めながら、祭事や儀式、文化伝承事業の機能を充実させた改築、多機能型交流施設への転換などを検討していく必要がある。

また、釧路市立博物館や釧路市動物園においてもそれぞれにアイヌ文化の情報発信を行っているところであるが、釧路市立博物館においては世界最古級の木綿衣をはじめ貴重な所蔵品があるものの従来の手法では紹介が困難であり、さらにインバウンドの増加に伴い映像展示等新たな手法による情報発信が求められているほか、釧路市動物園においては体系的なアイヌ文化の情報発信までには至っておらず、アイヌの人々の自然との共生と動物たちの関連性を持たせた発信が求められる。

阿寒アイヌ協会の主な活動の拠点となる阿寒湖温泉地区については、戦後観光業が盛んになるにつれ、工芸品販売や歌、踊りなどアイヌ文化への需要が高まり、道内他地域からアイヌ工芸家等が流入し、昭和34年には前田一歩園主の前田光子氏がアイヌ民族に

土地を無償提供し、それまで分散していたアイヌ民族が集結。その後共同作業場が設置され、民工芸品店が軒を連ねる道内でも最大規模を誇る現在のアイヌコタンの原型が出来上がった。工芸家の中からは、故瀧口政満氏や故藤戸竹喜氏、故床ヌブリ氏など著名な工芸作家が誕生している。

上記のような経緯もあり、阿寒湖温泉地区においては、古くからアイヌ民族と和人とが協働したまちづくりを行ってきており、阿寒湖のアイヌ文化は他の地域にはない特色を有し、同じ市にある釧路地区と比べても異なった状況となっている。

しかしながら、阿寒湖温泉地区においても、アイヌコタンを支えてきた工芸家等が高齢化し、さらにはアイヌ工芸をはじめとするアイヌ文化を担うべき次世代の担い手についても、地域経済の低迷による雇用機会の減少等により地元を離れ、阿寒湖のアイヌ文化の特徴である高い工芸技術を継承・伝承していくことは喫緊の課題となっている。

これらのことから、釧路・阿寒の両協会が共同体を組織して実施するイオル再生事業等によるアイヌ文化の伝承・継承事業はもとより、アイヌ工芸技術の後継者育成の仕組みづくりが急務になっている。

さらには伝統は守りつつこれまでにない新たなアイヌ文化を活用したコンテンツの開発や国内外に向けたプロモーション等の取り組み、既存施設の活用を含めた体験プログラムの提供、持続的な価値を生み出す阿寒湖アイヌ文化のブランド化を進めるなど、経済的な自立に向けた取り組みを推進していくことが必要となっている。

#### ※アイヌ関連団体

- ※釧路イオル共同体(設立:平成30年1月)
- ※釧路アイヌ協会(設立:昭和35年4月)
- ※リムセ保存会(設立:昭和42年2月)
- ※阿寒アイヌ協会(設立:昭和36年4月)
- ※阿寒アイヌ工芸協同組合(設立:昭和61年10月)
- ※阿寒アイヌ民族文化保存会(設立:昭和43年12月)

#### ※アイヌ文化等関連施設

- ・春採生活館  
所在:釧路市春採1-12-22  
現況:昭和53年12月設置 刺繍講習会など地域住民の交流の場となっている。
- ・緑町生活館  
所在:釧路市阿寒町阿寒湖温泉4-7-43  
現況:平成10年設置 阿寒湖のアイヌ人々の伝承活動、コミュニティ活動等の場となっている。
- ・阿寒湖アイヌシアターイコロ  
所在:釧路市阿寒町阿寒湖温泉4-4-36  
現況:平成24年4月設置 国内初のアイヌ古式舞踊専用シアターとしてアイヌ古式舞踊等の演目を上演中。
- ・オンネチセ  
所在:釧路市阿寒町阿寒湖温泉4-4-34

現況：昭和60年4月設置 過去には古式舞踊のほか様々なアイヌ文化の発信イベントの拠点となっていたが、イコロ開設後は工芸品の展示などにとどまっており、その有効活用が課題となっている。

(2)アイヌ施策推進地域計画の目標

地域におけるアイヌ文化の着実な伝承・継承活動や様々な形でのアイヌ文化の発信等を通じて、アイヌの人々が民族としての誇りをもって生活でき、その誇りが尊重される地域社会の実現を目指す。

(3) 数値目標

事業	アイヌ文化の保存又は継承に資する事業 (伝統的なアイヌ文化・生活の場の再生支援事業)	アイヌ文化の保存又は継承に資する事業 (阿寒湖原産のヒメマス祭り(カパチェプノミ)情報発信事業)	アイヌの伝統等に関する理解の促進に資する事業 (アイヌ音楽文化育成事業)	観光の振興その他の産業の振興に資する事業 (阿寒湖アイヌ文化体験事業)
KPI	体験交流事業の参加人数	イベント参加者数	伝承会開催回数	オンネチセ利用者数
令和元年度 (基準年度)	—	—	—	(実施設計実施)
令和2年度	60人/年間	300人/年間	48回/年間	1万人/年間
令和3年度 (中間目標)	60人/年間	600人/年間	48回/年間	3.5万人/年間
令和4年度	60人/年間	800人/年間	48回/年間	5.3万人/年間
令和5年度 (最終目標)	60人/年間	1,000人/年間	48回/年間	5.3万人/年間

事業	観光の振興その他の産業の振興に資する事業 (アイヌ文化ガイド事業)	観光の振興その他の産業の振興に資する事業 (阿寒湖アイヌ文化ブランド化に向けた知的財産保護事業)	観光の振興その他の産業の振興に資する事業 (阿寒湖アイヌアーティストのブランド化事業)	観光の振興その他の産業の振興に資する事業 (阿寒湖アイヌコタン商店街活性化事業)
KPI	阿寒湖温泉延宿泊者数	相談件数	阿寒湖温泉延宿泊者数	参加全店舗の売上対前年度比
令和元年度 (基準年度)	60万人/年間	5件/年間	60万人/年間	—
令和2年度	63万人/年間	8件/年間	63万人/年間	(イベント実施)
令和3年度 (中間目標)	65万人/年間	12件/年間	65万人/年間	3%増/年間

令和4年度	68万人／年間	16件／年間	68万人／年間	—
令和5年度 (最終目標)	70万人／年間	20件／年間	70万人／年間	—

事業	観光の振興その他の産業の振興に資する事業 (アイヌ文化関連観光プロモーション事業)	観光の振興その他の産業の振興に資する事業 (アイヌ文様を活用したアパレル商品等販売促進事業)	観光の振興その他の産業の振興に資する事業 (アイヌ文化情報発信体験拡散プロモート事業)	観光の振興その他の産業の振興に資する事業 (アイヌ文化フェスティバル開催事業)
KPI	阿寒湖温泉延宿泊者数	商品の売上高	阿寒湖温泉延宿泊者数	阿寒湖温泉延宿泊者数
令和元年度 (基準年度)	60万人／年間	(イベント実施)	60万人／年間	60万人／年間
令和2年度	63万人／年間	1,500千円／年間	63万人／年間	63万人／年間
令和3年度 (中間目標)	65万人／年間	—	65万人／年間	65万人／年間
令和4年度	68万人／年間	—	68万人／年間	68万人／年間
令和5年度 (最終目標)	70万人／年間	—	70万人／年間	70万人／年間

事業	観光の振興その他の産業の振興に資する事業 (アイヌ工芸技術後継者育成事業)	観光の振興その他の産業の振興に資する事業 (釧路市立博物館アイヌ文化展示コーナー強化事業)	観光の振興その他の産業の振興に資する事業 (神々(カムイ)に逢える釧路市動物園整備事業)	地域内若しくは地域間の交流又は国際交流の促進に資する事業 (高齢者コミュニティ活性化による文化知見の伝承・共有化事業)
KPI	制作種類	博物館入館者数	釧路市動物園入園者数	緑町生活館、春採生活館の高齢者延べ利用人数
令和元年度 (基準年度)	—	3万人／年間	(事前調査実施)	2,000人／年間
令和2年度	2種類／年間	3.09万人／年間	(基本構想策定)	2,000人／年間
令和3年度 (中間目標)	2種類／年間	3.18万人／年間	(基本構想策定)	2,000人／年間
令和4年度	3種類／年間	3.27万人／年間	12.5万人／年間	2,000人／年間
令和5年度 (最終目標)	3種類／年間	3.36万人／年間	13万人／年間	2,000人／年間

#### 4 アイヌ施策の推進に必要な事業に関する事項

##### 4-1 アイヌ文化の保存又は継承に資する事業

■伝統的なアイヌ文化・生活の場の再生支援事業・・・儀式、生活用具、伝統料理に必要な自然素材の確保を可能とするために伝統的生活空間を再生し、栽培地を整備することにより、アイヌの人々の文化の保存、継承、発展を図り、アイヌの人々が民族としての誇りをもって生活ができるよう知識の普及や啓発を促進する。

■阿寒湖原産のヒメマス祭り(カパチェプノミ)情報発信事業・・・現在行っている阿寒湖が原産であるヒメマス祭り(カパチェプノミ)について、観光客など多くの方々に来場していただくために、情報発信やPRの強化を図る。

##### 4-2 アイヌの伝統等に関する理解の促進に資する事業

■アイヌ音楽文化育成事業・・・アイヌ音楽・アイヌ語の専門家を講師に招き、アイヌ民族子弟にアイヌ音楽の伝統を伝えるとともに、アイヌ民族子弟による新たなアイヌ音楽を制作することで、アイヌ音楽・アイヌ語の継承を行う。

##### 4-3 観光の振興その他の産業の振興に資する事業

■阿寒湖アイヌ文化体験事業・・・阿寒湖アイヌ工芸協同組合が所有するオンネチセにおいて、観光客等にアイヌの伝統的儀式体験や木彫・刺繍、ムックリ製作及び演奏体験、アイヌ音楽、アイヌ料理体験などを提供するとともに、アイヌアート等の展示を行うために事業実施に必要な施設整備を行う。

■アイヌ文化ガイド事業・・・アイヌ民族自らがガイドとなるアイヌ文化ガイド事業を構築し、阿寒湖のアイヌ文化を観光客に伝えるとともに、先住民の文化やアドベンチャーツーリズムに関心の高い個人旅行者をターゲットとしたガイド事業のプロモーションを実施する。

■阿寒湖アイヌ文化ブランド化に向けた知的財産保護事業・・・阿寒湖アイヌ文化ブランド化に向けて、アイヌ文様等を保護し、知的財産としての価値を高めるため、アイヌ文様及びそのデザイン等に関する情報発信、調査、相談、認証制度のPR、アイヌ文様デザインの作成・知的財産管理、アイヌ文化コンサルタントの認定・紹介などを行う。

■阿寒湖アイヌアーティストのブランド化事業・・・WEBや動画作成を通じ、阿寒湖におけるアイヌ民族の手仕事、舞踊、音楽等を伝承、実践する若手アーティストのプロモーションを行い、アイヌ文化による阿寒湖温泉の観光振興を図る。

■阿寒湖アイヌコタン商店街活性化事業・・・阿寒湖アイヌコタンの各商店への誘客や固定客獲得のために、商店街活性化の高いノウハウを持つクリエイターによる各店舗の独自性を抽出したポスター制作を行い、阿寒湖温泉地区や釧路地区においてポスター展を実施する。

■アイヌ文化関連観光プロモーション事業・・・阿寒湖アイヌシアター「イコロ」における新たなデジタルコンテンツの制作をはじめ、既存の様々なアイヌコンテンツの多言語化を図るなどし、WEBや動画、雑誌、TV等の媒体を活用して国内外に向けて発信するプロモーションを行う。

■アイヌ文様を活用したアパレル商品等販売促進事業・・・阿寒湖温泉地区のアーティストとメーカーにより開発するアイヌ文様デザインのアパレル商品等について、デザインの

背景等アイヌ文化の情報発信と販売促進の取り組みを行う。

- アイヌ文化情報発信体験拡散プロモート事業・・・アイヌ高齢者等から伝承された芸術文化を日本各地において披露することで、アイヌ文化の振興を目指すとともに、阿寒湖温泉地区のアイヌコタンやアイヌシアターイコロなどへの観光プロモーションを行う。
- アイヌ文化フェスティバル開催事業・・・自然と共生してきたアイヌ文化の魅力を国内外に発信するために、約2万人が来場する冬期観光イベント「氷上フェスティバル」の新たなコンテンツとして、アイヌ音楽やアイヌ古式舞踊、アイヌの食や文化体験を実施する。
- アイヌ工芸技術後継者育成事業・・・阿寒湖のアイヌ工芸の特色である大型木彫作品を制作する技術を次世代に継承していくため、彫刻家の指導により、実際に作品を制作することで技術伝承を行う。加えて収益性のある小型作品や希少な祭祀具についても制作指導により技術伝承する。また、アイヌ工芸技術の継承などの仕組みづくりについて検討を進める。
- 釧路市立博物館アイヌ文化展示コーナー強化事業・・・釧路市立博物館が所蔵する様々な貴重なアイヌ文化コンテンツについて、より多くの人々の目に触れられるよう映像で紹介する映像展示を新設するとともに、映像と関連したアイヌ文化に関するワークショップや講演会を実施する。
- 神々(カムイ)に逢える釧路市動物園整備事業・・・動物園が阿寒湖や釧路市内のアイヌ文化関連施設等へ旅行者を誘う拠点となるとともに、来場者の動物とアイヌ文化との深い関係性の理解を深めるために、キムンカムイ(ヒグマ)、サルルンカムイ(タンチョウ)、コタンコロカムイ(シマフクロウ)などの北海道に生息する動物たちとアイヌの暮らしとの関わりを理解できる観覧施設を整備する。

#### 4-4 地域内若しくは地域間の交流又は国際交流の促進に資する事業

- 高齢者コミュニティ活性化による文化知見の伝承・共有化事業・・・故・山本多助翁記述ノート及び収集した資料を翻刻・デジタル化し、釧路地方のアイヌ語や文化などを明らかにし、今後のコミュニティ等活動の基礎資料としていく。また、アイヌ民族の高齢者を専門家・有識者と位置づけ、高齢者が保有するアイヌの文化知見(歌、踊り、工芸、料理、儀式、ウパシクマ・ユーカラ等)を次世代に受け継いでいく。

### 5 計画期間

アイヌ施策推進地域計画認定の日から令和6年3月31日まで

### 6 法第15条第1項の交付金を充てて行う事業の内容、期間及び事業費

#### (1)文化振興事業

- ・伝統的なアイヌ文化・生活の場の再生支援事業  
事業内容:4-1掲載事業と同じ  
事業期間:令和2年度～令和5年度  
事業費:74,194千円
- ・阿寒湖原産のヒメマス祭り(カパチェブノミ)情報発信事業  
事業内容:4-1掲載事業と同じ

事業期間:令和2年度～令和5年度

事業費:15,840千円

・アイヌ音楽文化育成事業

事業内容:4-2掲載事業と同じ

事業期間:令和2年度～令和5年度

事業費:15,925千円

(2)地域・産業振興事業

・阿寒湖アイヌ文化体験事業

事業内容:4-3掲載事業と同じ

事業期間:令和元年度～令和5年度

事業費:91,910千円

・阿寒湖アイヌ文化ガイド事業

事業内容:4-3掲載事業と同じ

事業期間:令和元年度～令和5年度

事業費:118,815千円

・阿寒湖アイヌ文化ブランド化に向けた知的財産保護事業

事業内容:4-3掲載事業と同じ

事業期間:令和元年度～令和5年度

事業費:71,113千円

・阿寒湖アイヌアーティストのブランド化事業

事業内容:4-3掲載事業と同じ

事業期間:令和元年度～令和5年度

事業費:93,830千円

・阿寒湖アイヌコタン商店街活性化事業

事業内容:4-3掲載事業と同じ

事業期間:令和2年度内

事業費:16,405千円

・アイヌ文化関連観光プロモーション事業

事業内容:4-3掲載事業と同じ

事業期間:令和元年度～令和5年度

事業費:130,000千円

・アイヌ文様を活用したアパレル商品等販売促進事業

事業内容:4-3掲載事業と同じ

事業期間:令和元年度内

事業費:9,685千円

・アイヌ文化情報発信体験拡散プロモート事業

事業内容:4-3掲載事業と同じ

事業期間:令和元年度～令和5年度

事業費:127,398千円